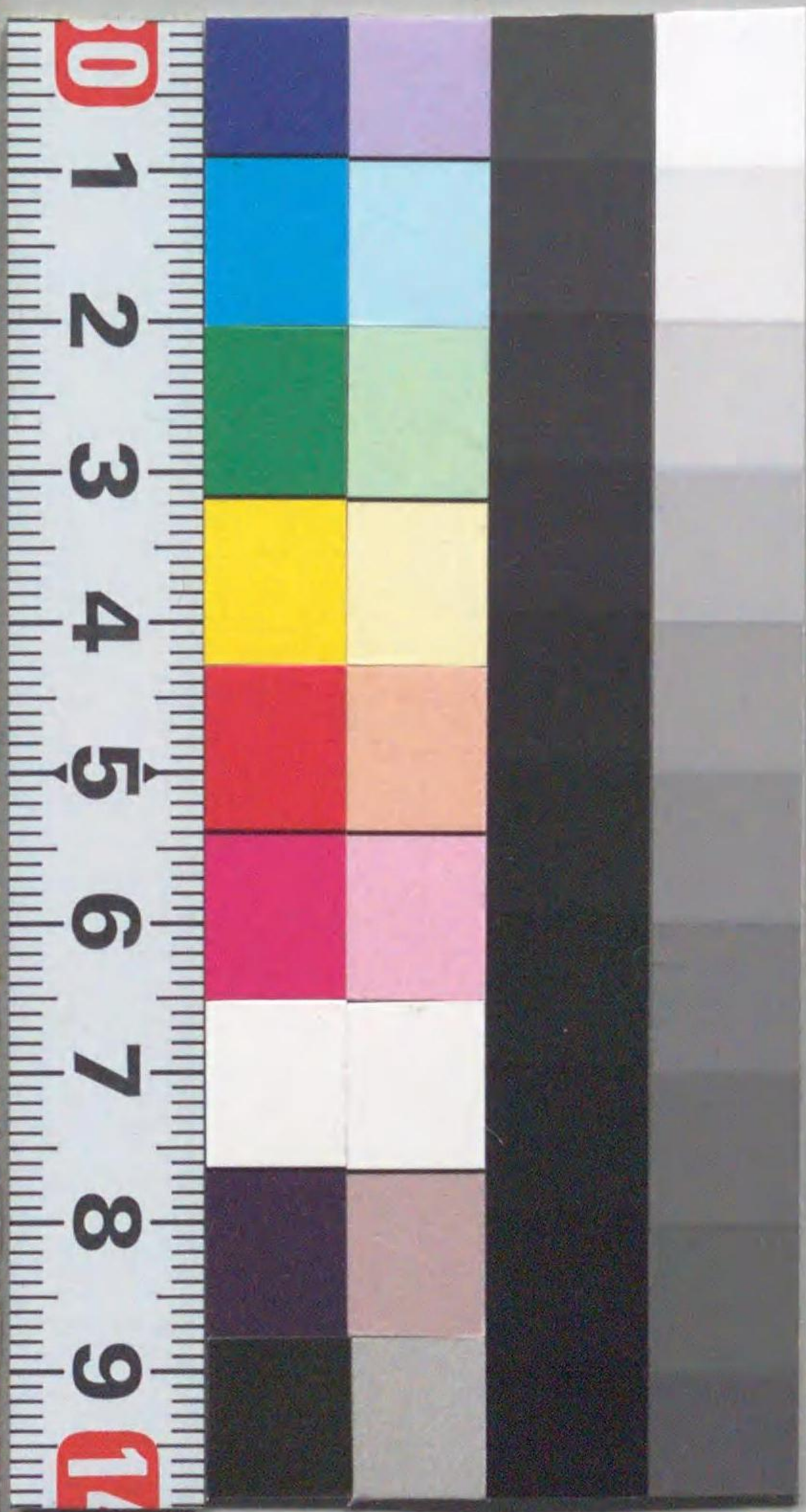


昭和七年十一月五日

日支米三國關係の變遷 (上)

(以印刷代謄寫)

海軍省軍事普及部



日支米三國關係ノ變遷（上）

海軍大佐 關 根 郡 平

米支貿易の發端

一、一七八四年二月二十二日（ジョージ・ワシントンの誕生記念日）商船エムプレス・オブ・チャイナは、野生の人蔘四十噸を積んで紐育港を出帆し、喜望峰經由廣東に向つたのであるが、是れ即ち米支貿易の濫觴であつて、同船の積荷監督であつた陸軍少佐サミスエル・シヨウは、ワシントンの親友で獨立戰爭中はノックス軍に屬して勇戦した人であるが、其の後最初の廣東領事となつた。

當時支那では非常に野生の人蔘を珍重し庶民の採取を禁じたと云ふことであるが、之は催春劑として使用したもので極めて高價であつたけれども、米國ではニューヨーク・イングリッドやウエスト・ヴァージニアの山中に簇生して居つた。

支那は文字通り自給自足國であつて米國に産する品物では支那の陶器や絹布と交換

二
することが出来なかつたから、米人は人蔘に着眼したものと見える。
一七八四年と云へば獨立戦争が終つた許りのことであつて、大陸議會が政權を握つて居たのであるが、此の頃から既に米支直接貿易に力を注いで居つたことは餘程興味ある事柄である。此の時代に於ける米人は英國其他西歐及北歐の大海國から傳來した所謂海員氣質を多分に持つて居り、殊にニュー・イングランドやヴァージニア方面には、造船材料に適する木材が豊富であつて盛んに船舶を建造したと云ふ話である。

支那貿易を開いたのは七年間續いた獨立戦争で國內が非常に疲弊したので此の疲弊を癒す間の企であつた。然るに第一回の貿易船エムブレス・オブ・チャイナは大成功を收め、投資額十二萬弗の純益三萬弗を擧げて翌年五月紐育に到着したので朝野に非常な刺戟を與へ支那貿易熱が勃興し、六、七十噸の小船迄も或は喜望峰或はホルン岬を廻つて支那に向ふと云ふ有様で、一七八六年には軍艦アライアンヌすら商船に改装支那航路に配置された程であつた。

支那門戶開放の淵源

一七九四年初代の大統領ワシントンは、廣東領事サラスエル・シヨウを通じて支那政府に對して「支那は米國の爲に門戶を開放すべし」と申し入れた。
ナポレオン戦争中に於ける米國は中立國として盛んに海上に雄飛し、支那貿易の如きも殆んど米國の船腹に依つて行はれた有様で、此の間前後二回に亘り海洋の自由問題で佛英兩國と戦ひ、又トリポリやアルヂールの海賊征伐にも従事して居るが、是れ全く米國船の活躍を如實に物語るものである。

二、一八二〇年頃布哇のホルル港は米國商船及捕鯨船の根據地となり、同年中米國海員の寄港した者は二千人を算したと云ふことである。捕鯨船は獨立戦争以前から太平洋に在つたと傳へられるが、此等の捕鯨船は第十九世紀となるや間もなく日本近海にも出沒したものであらう、一八二三年には米國捕鯨船トランシットの船長カツフィンが小笠原群島に來り母島列島を發見して居る。

夫のモンロー主義が中外に宣明されたのは一八二三年であるが、其の原因は二つあり、一は歐洲の神聖同盟が西班牙を助けて一八二〇年頃から盛んに獨立を企てつゝ

モンロー主義
宣言さる

米人の小笠原
群島母島列島
を發見す

あつた中南米諸國に干渉を防止すること、他は當時一八二〇年アラスカを取り、一八二一年には北緯五〇度以北は領海であると聲明し、北米西米方面までも南下しつゝあつた露西亞に對抗する爲であつた、米人は此の時分盛んにオレゴン地方で支那に輸出する毛皮を得て居つた。

尙モンロー主義の宣言に關しては中南米に對する通商上の關係から、英國は獨立を有利としたので外務尙書カンニングは内々米國を援助し、亦對露問題に就いても英米は協同動作したと傳へられる。

三、一八三〇年頃迄には米國の商船捕鯨船は太平洋及印度洋到る處に活躍を擅にして居つたが、太平洋問題は未だ輿論を支配する迄には發展して居らなかつたと見えて、一方には商船隊及捕鯨船の活動を保護せんが爲武力を行使しなければならぬと云ふ議論が起り、大統領ジョン・クウインシー・アダムスは一八二九年ウイルクス遠征隊を太平洋に派遣する議案を通過する必要を議會に勸告したけれども「本國の廣漠たる未開地を有して居る所の米國としては斯る遠征隊を仕立てる必要はない」と云つ

米人の小笠原
移住

て議會は該案を否決し去つた位であつた。然しながら、米人の太平洋發展は依然として熄まず、夫のナサニエル・セーヴォリー外四名の白人を中心とした約二十名許りの移民が布哇から小笠原群島に移住したのは一八三〇年であつた。

尙又米人が初めて巴奈馬運河を開鑿しやうとする考を起したのも同年であつたと傳へられる。

此の頃米人が支那へ輸入した物質は銀貨と毛皮であつて、依然として陶器、絹布、香料類と換へて居つたのであるが、此の頃迄に支那に輸入された銀貨及銀塊は實に五億弗に達したと云ふことである。又支那諸港に出入する米船は益々増加し、一八三三年上海在泊の米國船は四萬噸、英國船が三萬噸であつた。

四、斯くしてウイルクス遠征隊派遣計畫の實現は數年間遷延されたが、一八三六年議會は漸く該計畫に要する經費に協賛を與へたので、海軍代將チャールズ・ウイクルスの指揮下に多數の科學者を乗せた六隻の一小船隊を編成した。同隊は一八三八年八月ハンプトン・ロイズ發マゼラン海峽を経て太平洋に進出し、多數の島嶼を探險

ウイルクス遠
征隊太平洋諸
島を探險す

測量した上三年有半の後喜望峰經由歸國した。ウイルクスはサモア及フィジー兩群島の酋長をして通商保護を誓約せしめ、又一八四一年ウエーキ島を發見し米國の領土なりと宣言したが、之が原因となつて一八九九年同島は遂に米國の領有に歸したのである。

鴉片戦争と米國

五、一八四一年鴉片戦争が起つた時米國の亞細亞船隊司令官カーネー代將は「英國が戦争に依つて得た權益には米國は總て均霑する」と云ふ方針下に行動したが、一八四二年國務卿タニエル・ウエブスターは之を聞知してカーネー代將の方針を承認し、カレブ・カツシングを支那に特派して最惠國條約の締結を迫らしめたのであるが、一七九四年ショウを通じてワシントンが行つた對支交渉と相俟つて米人は門戶開放主義の發端と見做して居る。

カツシング條約締結さる

カツシングは一八四四年支那政府と一條約を結んだが之はカツシング條約又は望厦條約と稱せられる。

上海と米國との關係起る

六、上海が開港場となつたのは一八四三年十一月十四日のことであるが、歐米人がず

つと以前から上海で貿易を營んで居つたことは前述した通である、上海に租界（共同租界の前身たる英租界）が出来たのは十一月二十九日であるが、米人は英國租界の内外に居住したものでなく、一八五三年に蘇州河から黄浦江に沿つた北部一帯に米國租界が出来た、けれども米國租界は素々條約で定つたものでなく其の境界も曖昧であつた、一八六三年六月米支兩國政府の間に協定が成り、米國租界の境界に目鼻がついたが、間もなく同年九月英米兩租界は合併して一の共同租界となつた。

セワードの豫言

七、一八四三年、十八年後大統領リンカーンの國務卿となつて大に手腕を太平洋方面に振つたウイリアム・エッチ・セワードは「將來世界の大事件は太平洋に於て起るべし」と豫言した。

八、一八四五年米國議會は「朝鮮と日本を開國せしむべし」と云ふ決議案を通過したが、此の決議に基いて一八四六年海軍代將ビッドルは九十門艦コロンバス及フリゲート艦ヴァンサヌの二隻を率ゐて江戸灣に這入つた、ビッドルは直に幕府に向つて開港互市を迫つたが、大統領から日本の感情を害するが如き行動に出ることを禁ぜ

品川臺場築設
さる

られて居つたから、幕史の拒絶に會ふや何等爲す所なくして倉皇去つて長崎に赴いた、之は最初の黒船騒ぎであつた、其の結果水戸齋昭が主唱者として品川灣に七つの臺場が築かれたのであつた。此の年米國は米墨戰爭の結果カリフォルニアを取り金門灣頭には星條旗が翻へされたのである。

米國捕鯨業の
發達

九、ダブリユー・エル・マルザインに従へば一八四二年米國は世界の捕鯨船總數八八二隻中實に六五二隻を所有したと云ふことであるが、一八四七年北太平洋を主要活動舞臺とした米國捕鯨船の取得した鯨油は十七萬噸を算し全世界の取得高の八割を占めて居つた。

カリフォルニアの
金の發見

巴奈馬地峽鐵
道の起工

一〇、一八四八年にはカリフォルニア州に金鑛が發見され米人は蟻の甘きに就くが如く、陸續として大陸横斷カリフォルニアに赴いた、そこで機を見るに敏なる米國資本家等はカリフォルニア州に至る捷路として同年中に巴奈馬地峽鐵道を起工した。カリフォルニア州に金鑛が發見されたことは恐らく全世界に衝動を與へたものらしく、一八四八年中に支那人五〇名が香港から桑港に移住した。

錢屋佐八郎の
渡米

錢屋五兵衛の三男佐八郎は、一八四七年か又は其の翌年に桑港に赴き三年間滞在したらしい、彼が磔刑に處せられたのは一八五一年である。

一一、米人に言はせると此の頃日本近海に活動して居つた捕鯨船が日本の陸岸で難破したり薪水を求めて日本に寄港したりすると其の都度日本官民の爲迫害され、一八四九年グリーン中佐の指揮するフリゲート艦プレブルは長崎に入り難船抑留されて居つた捕鯨船員十七名の引渡を請求し、肯かなければ市街を砲撃するぞと脅かして漸く其の目的を達したと云ふことである。

米支貿易發展
の理由

一二、斯くして米支貿易は益々盛況を加へ一八五〇年頃には支那の對外貿易は大半米國に依て運搬されたが、夫れは英米兩國から喜望峰又はホルン岬經由で支那に至る距離は殆んど相等しかつたこと、一八四〇年頃完成したクリツパー型艚の米船が快速な點に於て他に類例がなかつたことが原因であつた。

ペリーの訪日
と其の理由

一三、前記グリーン中佐は其の報告中に速に日本をして開港せしむる必要を強調して居るが、グリーンやビッドルの報告に基いて大統領ファイルモリアは愈決心したものゝ如

く、一八五二年代將ペリーに二艦隊を授け日本を訪問開港互市を迫らせることになつたのである。ペリーが日本を訪問した理由は左の二つである。

(イ) 従来商船は大抵喜望峰經由で支那に赴いたので米支貿易上日本は埒外に在つた譯であるが、今や巴奈馬地峽鐵道は完全に近づいた(一八五五年開通)のみならず新にカリフォルニアを取り米國は太平洋に臨む一國となつたが、太平洋岸から直接支那に至る航路を開く必要が起つたのであるが、偶々日本は其の上により而も石炭を埋藏して居つたこと。

(ロ) ペリーが日本を訪問した一八五三年に北太平洋に於ける米國捕鯨船の漁獲高は一七、〇〇〇、〇〇〇弗に達したのであるが、日本が鎖國を續けて居ては前述したやうな理由で捕鯨船の活躍に都合が悪かつたこと。

尙一八五三年頃の米國の外國貿易總計約四億弗であつた。

ペリーの小笠原占領

一四、ペリーは海軍省からは「太平洋に貯炭所の連鎖を作れ」と云ふ命令を受けて居つたのであるが、ペリーは南方及南西諸島を米支直通航路上の要衝と認め桑港、布

哇、小笠原、琉球上海を連ねた貯炭所の連鎖を作らうと決心し、那覇には海軍病院と貯炭所を設け父島の二見港にも根據地建設計畫を樹て一時小笠原群島を占領した程であつたが、英國政府の抗議に遭つて遂に之を放棄するに至つた。斯くて第一義的の任務遂行は不可能となつたので寧ろ第二義的の任務である日本の開國に専念することになり一八五四年二月再度江戸灣を訪問したのである。

一五、江戸灣に於けるペリーは露佛兩國の策動に備へんが爲條約締結を急ぎ、一八五四年三月三十一日神奈川で調印を了し日本は二百年の長夢から覺めて下田及函館の兩港を開くことゝなつたのである、ペリーの條約は急いで締結しただけに米國側を満足させなかつた、之を改正したのは最初の總領事で後に最初の公使となつた、タウンセンド・ハリスであつた。

タウンセン
ド・ハリス駐
日代表となる

ハリスは一八五八年徳川幕府と通商條約を結び一八五五年の日露一八五六年の日蘭條約に倣つて治外法權を獲得した。

一六、ペリーが東洋に來た頃支那にはハンフレイ・マーシャルが米國代表として駐在

して居つた、ペリーの日本に於ける行動が積極的なるに反して、マイシヤルは支那に對して頗る穩健な態度を持し合法的にカッシング條約の勵行を主張する程度であつた、此の時支那は長髮賊の亂（一八五一—一八六五年）で大騒ぎであつたものだからマイシヤルはペリーと共に支那が南北に分裂し夫れ夫れ英露の保護領となり、米國は支那市場から驅逐されはしないかと頻りに心配したと云ふことである。

マイシヤルは次でロバート・エム・マクレインが代表となつたが、國務卿のマイシヤルはマクレインに對する訓令中に「支那が分裂した場合には新興政府總てと條約を結ぶべきである」と述べて居る。

一七、一八五三年マクレインに變りピーター・パーカーが代表となつた、パーカーは生溫いことでは清朝は仲々言ふことを聴くものでないと信じたものだから、一八五六年國務卿マイシヤルに對して英佛兩國と提携して朝鮮、舟山列島及臺灣を保障として占領するに如かずと意見具申に及んだが、マイシヤルは之を許さず唯米國人の生命財産保護の爲艦隊を増勢したのみであつた。

然しながらパーカーは容易に屈せず一八五七年改めて臺灣の保障占領を主張したが、之に對してマイシヤルから何等返事を得られなかつた。

一八、一八五七年ウイリアム・ビー・リードがパーカーに代り初めて特命全權公使となつた、リードに對する國務卿の訓令は相變らず米支親善を骨子としたものであつたが、リードは親しく支那の實際に接するや忽ちにして米國の冷靜な態度に慊らなくなり、國務卿カッス宛の書信中「須らく斷乎たる態度に出でざるべからず」と言ひ英佛と聯合して北京政府を壓迫することに就て承認を要請したが、南北戦争が目睫の間に迫つたからでもあらう、米國政府は斷じて武力の行使を許さなかつた。

一九、ペリーが歸米したのは一八五五年であつたが此の頃から南北戦争が起る兆候が現はれ、一八六一年遂に開戦となつたので外國貿易に大打撃を與へたのであるが、戦後は西部開拓熱が旺盛となり又對外貿易を顧る暇がなかつた、南北戦や西部開發熱と相俟て對外貿易に影響を及ぼしたものは一八四〇年頃英國で汽船が建造され、最初は木造であつたが次第に鐵で造られ臙て鋼製となつたが、米國には製鐵業と云

スエズ運河開
通の影響

ふものは皆無であつたので英國に企及することが出来なかつたことである。然しながら其の後間もなく更に米支貿易上重大な事件が起つた、夫れはスエズ運河が開通して英國から支那に至る距離は米國東岸からよりも約二千哩縮まつたことである。スエズ運河が開通の報を得た米國の輿論は非常な衝動を起したと傳へられるが、同年中に桑港からソート・レーキ・シテイーを経て市俄古に至る大陸横斷鐵道が開通したのは恐らくスエズ運河に對抗する意味が含まれて居つたらう。

南北戦争後十餘年を経過して國力が充實し、今迄西部地方の開発に吸収され東部地方の工作品は漸く生産過剰を訴へて來たので海外に市場を求めざるを要を生じたのであるが、粗製品たる物質の捌口とするのであるから十數年前迄盛んであつた支那貿易を復活するに若くものなしと云ふことになる、巴奈馬運河を開鑿して今度は歐羅巴よりも支那に近くならうとするに至つたのである。

米人が巴奈馬運河に着目したのは前述の通り一八三〇年であつたが、獨逸の詩聖ゲーテは一八二〇年既に將來同運河を開鑿するのは米國人であると豫言したと傳へられる。

米國は最初單獨開鑿の力がなかつたので、一八五〇年英國とクレイトン・バルワー條約を結んで英米共に單獨に開鑿に着手しないことを定約したのであるが、今や單獨に開鑿する必要が起り又力も出來たので該條約破壊の運動を起したが、之と同時に玖馬獲得熱が再燃するに至つたのは注目し値すると思ふ。

二〇、南北戦争後米國は西部地方の開発に没頭して居つたのであるが、夫れにも拘らずアラスカを購ひアリューシアン群島を收め、無人島ミッド・ウエーを領し布哇に手を着けたのみならず、東洋に於ても列國と協調して米國權益の擁護伸張に努めたのであるが、之は一八六一年から一八六九年迄前後八年間國務卿であつたウイリアム・ヘンリー・セワードの經綸であつた、尙米國は東洋問題で列國と協調して事に當つたことは珍らしいことであるが、之もセワード獨特の政策であつて其の後幾何もなく再び獨立的の立場に歸つた。

二一、一八五八年日本との通商條約締結に成功したハリスは曾てカッシングやマーシ

セワードの太
平洋政策とア
ラスカ及アリ
ユーシヤンの
買収

ハリスの親日

ヤルが支那に對したと同様、日本に對して好意を示したことは確かであるが、之は米國政府の態度と云ふよりも本人の個性が然らしめたものと思はれる。

一八六〇年江戸では米國公使館の通譯官ヒュースケンを浪士等が殺害し、又一八六一年七月には十四人の浪士が英國公使館を襲撃する等頗る物騒であつたから、英、佛、蘭、露の四ヶ國代表は一八六一年中に相踵いで江戸を引拂ひ横濱に移つたが、當時外交官の牛耳を執つて居つたハリスは毅然として江戸に踏留まり幕府と諸外國との間の調停役を勤めた、然しながら流石のハリスも心中不安に堪えなかつたものか軍艦ワイオミング（排水量九九七噸のスループ）の横濱派遣を稟請して居る。

一八六二年ハリスの引退と共に英國公使が外交團を指導し威壓的態度に出た、米國側ではロバート・エッチ・ブルユーインがハリスに代つて公使となつたのであるが、同人は國務卿セワードからハリスと同様「列國と協調すべし」との訓令を受けた、そこで一八六四年五月三十一日米、英、佛、蘭の四ヶ國代表の間に一の議定書が調印され相協同して條約上の權利を主張することとなり其の結果、同年八月四ヶ

米英佛蘭四國
國軍艦の下關
砲撃事件

國軍艦の下關攻撃となつたのである。

之れより先、一八六三年六月二十五日米船ペンブロークは横濱から長崎に赴く途中、瀬戸内海で長州藩の一軍艦から攻撃されたのでブルユーインは幕府に對して強硬に抗議すると共にワイオミングを下關に派遣した、七月十六日同艦と陸上砲臺との間に戦鬪が起り、米國側の傳へる處に依ると其の勝利に歸したと云ふことであるがワイオミングは翌年前記の下關攻撃にも參加したのである。

二二、一八六二年七月大統領リンカーンから支那公使に選任されたアンソン・バーリントンゲームは北京に到着したが當時は一八六〇年英佛聯合軍が北京を陥れた結果、締結された條約に依り、條約國代表者の北京在住を許して居つたのである。

バーリントンゲームは其の人格と手腕とに依り北京外交團で重きを爲すに至つたが、國務卿セワードからは「特別の理由なき限り英佛兩國公使と協調すべし」と命ぜられたのみで全く行動の自由を許されて居つた。

バーリントンゲームは北京駐在の各國代表者と熟議の後支那に對し和平、親善及領土尊

バーリンゲ
ム使節と其の
成果

重を基調とする列國の協同方針を定め、セワードを説き自ら一使節の長となり列國政府を説得する爲に一八六七年十一月公使の職を辭した。

バーリンゲム使節が説得した結果一八六八年七月二十八日バーリンゲム條約が結ばれたが、之は一八五八年の天津條約にセワードが起草した八箇條を加へたものである。然しながらバーリンゲムの政策が成功しなかつたことは米人も之を認め居つたと見え、其の後繼者たるジェー・ロス・ブラウンは支那を侵略することには絶対に反対し、米國政府の政策を批難したから一八六九年遂に召還された。

セワードの對支政策を要約すれば南北戦争の爲に列國と協調主義を採つたが支那に對する親善主義は却て之を慢心せしめ遂に失敗したものと謂へるであらう。

ブラウンの後を襲つたのはエフ・エフ・ロウであつたが、グラント大統領の國務卿ハミルトン・フィツシュはロウに對して條約上の權利を主張すべき旨訓令した。

二三、ダウセンド・ハリスの引退後一八六二年から一八七三年に至る十二年間はサー・ルーサーフオード・アルコックとサー・ハリパーキスとが相次いで駐日英國公使となつて外交團を指導して居つたのであるが、此の間最も注目し値すべしと思はれるのは明治維新の直前英米兩國は倒幕側に佛國は佐幕側に傾いて居つてアングロサクソン對拉典の抗爭關係が明かに露はれて居ることである、一説には英米側が朝廷を助けやうとしたのは當時實權は朝廷に移つたことを觀取し、若し有利な通商條約を結ぶには朝廷を助けるに若かずと考へた爲であるとのことである。

明治維新とア
ングロサクソ
ン對拉典の抗
爭關係

一八七三年（明治六年）米國公使ジョン・エー・ビンガムは東京に着任し、米國獨自の地位を開拓せんとして先づ從來の協調政策を放棄し英獨兩國公使の反對をも顧みず日本の條約改正運動に聲援を與へ遂に一八七八年七月二十五日華府で日本との間に一條約を締結した。

米國の親日政
策

二四、一八四五年米國議會はカリフォルニアの奪取に先だつて「日本と朝鮮とを開國せしむべし」と云ふ決議案を通過して居るが、米人が朝鮮に着眼したのは日本と同様捕鯨船の寄港するものが多かつた爲であらう。

米國と朝鮮

一八六六年米國の朝野は突如として注意を朝鮮に集中するに至つたが其の理由は左

の通りである。

(イ) 朝鮮沿岸で米船が破壊されたこと、

(ロ) 米人にして朝鮮と貿易關係を結ぼうとした者があつたこと、

(ハ) 朝鮮人が佛國宣教師を襲撃し一八六六年三月其の九名を殺害したことを口實に北京駐在の佛國代理公使は佛國政府に、朝鮮併合の意圖あることを公言したと、

一八六六年七月米國のスクーナー型帆船ゼネラル・シャーマンは貿易を目的として朝鮮に寄港した所、端なくも鮮人と衝突し乗員の中八名は殺され、残部は捕虜となりゼネラル・シャーマンは破壊された。

一八六七年及一八六八年ゼネラル・シャーマンと其の乗員の消息を確めやうとする企が行はれたけれども不成功に終り、一八六八年の夏上海在勤の米國總領事を朝鮮に派遣して、一條約を締結させやうとしたけれども是れ亦成功しなかつた。然しなから一八七一年海軍少將ジョン・ロージャースは汽走艦五隻を率ゐる北京在勤公使を

乗せて江華島に到着し、朝鮮政府の迎接準備を待つ間に何の遠慮もなく、沿岸の測量を始め測量艦が砲撃を受くるや否や、直に江華島砲臺を攻略破壊し、鮮兵二五〇名以上を屠つた、それでも猶朝鮮政府は屈讓しなかつたので七月何等得る所なくして退去するの已むなきに至つた。

一八八〇年今度は日本政府を介して朝鮮と交渉を開始しやうとしたけれども復亦失敗し、一八八二年支那政府の斡旋に依り漸く成功した、即ち代將シユフェルトは李鴻章の援助下に一條約を結んだが、米人の申分では其の條約中朝鮮を獨立國として取扱つたことは、日本政府の其の後の對支外交を有利に導いたと云ふことである。

支那人の米國
移住

二五、支那の移民が初めてカリフォルニアに這入つたのは、一八四八年であつたことは前述した通であるが、支那人も日本人同様始めは米國で歓迎され、現にペリーの遠征記には米支直接航路を引けば勤勉なる支那人を入米せしむるに極めて好都合だと書いてある程である、當時の増加率は左の通り頗る大であつた。

年	在 住 者 數
一八四八	五〇
一八四九	數百
一八五〇	數千
一八五一	二五、〇〇〇

然しながら其の入殖數が非常に増加するに従つて排斥運動が起り、一八八二年支那人の入國禁止法が聯邦議會を通過するに至つた。然らば日本移民は如何と云ふに錢屋佐八郎に就いては未だ米國側の記録が見當らない、最初米國に入國したのは一八五一年カリフォルニア州沖合で救助の上桑港に連れて行かれた漂流日本人十七名であつた、増加の様子は左表の通りである。

年	在 住 者 (入國者)
一八五一	(一七)
一八七〇	五五

日本人の米國移住

玖馬の叛亂と米國

一八八〇	一四八
一八九〇	二、〇三九
一九〇〇	二四、三二六 (二二、六二八)
一九一〇	七二、一五七

二六、南化戦争後間もなく玖馬に叛亂が起り支那に内亂ある場合の日本と同様米國としては坐視するに忍びざるものがあり、又一八七三年には夫のゲアシニアス事件が起つて米國は西班牙から言語に絶せる侮辱を受けた、然しながら南北戦争後例に依りて米國は戦備を怠り、殊に其の海軍は最も衰微したので如何ともする能はず、徒に國民をして切齒扼腕せしむるのみであつた、此の頃の米國海軍力は全勢力を集中するも智利の新艦二隻に對抗することが出来なかつたと傳へられる。

其處で一八八一年ガブリエールが大統領となるや、大に意を海軍の復興に注ぎ議會を督勵して造艦に着手せしめたのであるが、其の態度は頗る慎重なもので一八八二年八月五日の法律で先づ海軍顧問會議を設置し、其の進言に基いて復興計畫を樹

玖馬事件と海軍擴張

立し造船には必ず國産の鋼鐵を使用することゝした。

爾後造船は連続的に行ははれ愈米西戦争が開始された頃には西班牙の一三七隻に對して八六隻で數に於ては劣つて居つたが質に於ては殆んど比較にならない程優つて居つた。

米西戦争と其の結果

二七、前述の如く米國は殆んど準備完成の状態で一八九八年を迎へたのであるが、之に反して西班牙の軍備は外観は兎も角として内容全く空虚であつたから、同年二月十五日米國戦艦メーロン（商船を改造したもの）が玖馬國ハバナ港で爆沈したのを導火線として兩國の關係は頓に悪化し、遂に四月二十一日戦争状態に入り一般の豫想通西軍の敗戦となり八月十二日休戦休條約の締結を見たのである。

米西戦争の結果として、米國はカリブ海から西班牙の勢力を一掃し太平洋方面に於ては瓦無島及比律賓群島を領有することゝなつたのは特筆すべき事柄である、當時米國は一八九八年七月布哇群島を併合し、一八九九年にはサモアを併せ、又ウエーキ島を正式に米領なりと宣言しペリーの第一義的任務であつた「太平洋に貯炭所の

連鎖を作る」ことに成功したのである。

英國は米西戦争後間もなく夫のクレイトン・バルワー條約の廢棄を承諾し一八九九年から一九〇一年迄の間に之に代はるべきヘイポーンスフオート條約が結ばれ、米國は單獨で巴奈馬運河を開鑿することが出来るやうになつたのである。

デューウエーと比律賓

二八、デューウエー大將は一八七三年未だ測量艦の艦長として墨國西岸に在つた時、ジャジニマス事件が起り、西班牙との國交が危殆に頻したのを見て「比律賓取るべし」と言つたと自叙傳に書いて居るが、同書を見ても又チャドウィック少將の米西戦争史を讀んでもデューウエー代將が東洋に向け本國を出發する時には比律賓領有等は問題でなく、唯西班牙の東洋艦隊を目標として戦備を整へたのみであつた、一八九八年四月二十四日デューウエーに對する米國政府の命令も「西班牙艦隊を捕獲又は撃破せよ」と述べたのみであつた。

兵術思想の普及

要するに當時の米軍は敵の兵軍を撃破する以外には何物も眼中に置かなかつたのである。之は先づ制海權を得ると云ふ單一目標に向つて邁進したものでマハン提督の

兵術思想が既に普及されてあつた證據である。

比律賓領有問題は一八九八年五月一日デューイ艦隊が馬尼刺灣頭に大捷してから後起つたのであつて、茲に初めて比律賓の領有と其の效果に就て幾多新しい慾望が湧き漸次發育して行つたのである。

南洋群島と米國

瓦無島を取つたのも漸く六月二十一日のことであつた、尙同島は南洋群島中唯一の西班牙守備軍駐屯地であつたのである。

ハウランドに従へば比律賓及瓦無領有の經路は左の通りである。

(イ) 一八九八年六月初旬、米國政府は馬尼刺灣及びその附近を除き比律賓は依然西領として置くことに決したが、四月中旬一撥が起つたので情況は一變し七月には國務卿ヘイは英國が寧ろ米國の比律賓領有を希望し、然らざる場合には英國が買收の優先權を獲得せんとして居ることを感知した、勿論英國は獨逸の掌中に落ちることを恐れたからである。

(ロ) 一八九八年八月十二日の休戰條約には比律賓に關して何等確定的な條項が含まれて居らなかつたが、夫れは併合を主張する者と之に反對する者とが互に相譲らず何れとも決し兼ねたからである。

(ハ) 巴里媾和會議の全權に對する最初の訓令を出す頃には呂宋一島のみを獲得することに決して居つたが其の後群島全部の領有を主張せしめることゝなつた。

(ニ) 此の間獨逸は何物かを得んとして策動を續け一方には西班牙とカロリン群島の一部を買收する密約を結び、他方米國と交渉してスルイ叢島に對する權利を放棄する代償として瓦無島を除く南洋群島全部を買收した。

クラント將軍
及ル・ジャン
ドルの親日

二九、日本は明治七年臺灣の蠻族征討を行つたが、此の際日本は厦門の米國領事ル・ジャンドル將軍の進言に勵まされたと傳へられる、ジャンドルは進言のみに満足せず他の二米人と共に日本軍に従軍し、更に天津に赴いて大久保利通の一行に加はらうとして米國政府から拘禁されやうとした、ル・ジャンドルは後渡日して外務卿副島種臣の顧問となり大に日本の外交に寄與する處があつたが後日本に背いて朝鮮政府の顧問となり京城で死んだ。ル・ジャンドルは親日米人の錚々たる者であるが、

親日政策に依
り米國独自の
地位を開拓す

一八七九年前大統領グラント將軍は日本を訪問し朝野の歡待を受けた、此の際グラントは明治大帝に咫尺して種々政治及軍事上の意見を言上したと云ふことであるが、トリート教授は「グラントは東洋滯留期間日支紛争の解決に努め支那を説いて琉球問題では日本に譲歩し、朝鮮問題では日支を協調せしむることゝしたので爲に日清戦争を十七年間延期せしめた」と説いて居る、斯様なことは米國独自の地位を開拓しやうとする意味が含まれて居つたのであらうけれども、夫の條約改正にも前述のやうに卒先聲援した程で更に一八八三年には下關事件の賠償金七八五、〇〇〇弗を返還した。今の横濱港の防波堤は此の金で出来たのである。斯様な次第で日米に於ける米國の地位は極めて有力化したのであるが、一八八三年の末頃から英國の政策が親日的となり、漸次米國に代り一八九四年には日英間に對等の條約が結ばれ一八九九年を期して日本は治外法權制度を撤廢することゝなつた、要するに維新前後からは英米兩國は日本に好意を寄せ日清戦争後の三國干涉にも加はらなかつたのであるが、拉典對アングロサクソンの對立關係は茲にも露はれて居るのである。

英國政策の親
日化

日支米關係の
概観

三〇、以上は實に第十八世紀から十九世紀の末に亘る約百二十年間に於ける米國對日支兩國關係の梗概である。

此間最初の八十年間米支貿易は非常に隆盛であつたが後次第に衰へ十九世紀の末に至つて初めて其の再興準備が完成した。

米支貿易が衰へてから再興準備が出来た迄には實に四十五年間を要したのであるが、此の時期と日本の勃興とが偶然一致したが爲に米人中には「米支の關係は米日の關係よりも一層古く且密接であるのに米國が暫く手を退いて居る間日本が勃興して經濟的にも地理的にも米支間の邪魔物となるに至つた」と云ふ見解を懷く者があつた。現にハウランドは「明治維新よりずっと以前から日本は領土擴張と統一とを政策の根本方針として進み日米關係と西太平洋に於ける米國の地位に影響を及ぼした」と論じて居る。

然しながら之は認識不足と謂はざるを得ない。

日支の關係は日米の夫れよりも一層古く一層密接である。

支那の文明が東漸して日本古代の文明と融合して日本の文化となつた、夫れは二千年の昔である、然るに米支關係は僅に百五十年の歴史を有するに過ぎないのである。支那ばかりでない日支人は蒙古人種であることに疑ひはないが、筆者は曾て比律賓に旅行し日本人と比律賓人の混血兒よりも支那人と比律賓の混血兒の方がより多く日本人に似て居ることを發見した。筆者は決して日本人が支那人と南洋人との混血種なりと斷言するものではないが、東洋人種殊に支那人と共通の血液を持つて居ることは否定し難い事實である。即ち日支兩國民は同文同種である、兩國の關係が密接であるのは當然である。

日本が支那と他國との間に割込んだのでない。日本と支那との間に他國が割込んだのである。

(未完)

